

「日々の理科」(第1523号) 2018 (H30), -9, -9
「手作りバード・コール(4)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

バード・コールにヒートンをつけたのは、首からぶら下げられるようにする為だ。その紐もいろいろ試したが、安価できれいで比較的肌触りが良いものが、この「P.P.細紐」という商品だ。いわゆる「スズランテープ」を細くよったものだ。



1色での良いのだが、青と白を用意した。「選ばせる」ということは、子どもの意欲を向上させる意味で大切なことだ。



首にぶらさげて、完成した様子。

「何か金メダルみたいで、カッコイイな！」

「金メダルじゃないよ、木メダルだよ」

どの子も満足そうで、その様子が嬉しかった。

このバード・コールは、思いのほかいろいろな野鳥の声をまねできる。奥にさすほど高い音、抜けるぎりぎりだと低い音が出る。ボルト(金具)のほうを持って、木のほうを回すと、本物の小鳥の声に聞こえる。



ボルトを深くさして、それを支えにすると、このように机の上に飾っておける。これもこのバード・コールの特徴である。

ヒートンと紐をつけたら、ネーム・ペン(油性の細いペン)で、日付や名前などを書かせる。この子は「八子ヶ峰林間学校」と書いた。きっと良い思い出になっただろう。



【子どものノートから】

「バードコールというのを、初めて作りました。から松にあなをあけてもらって、そのけずった木ももらいました。袋に入れてにおいをかいだら、森のにおいがしました」

「私は、八子がみねホテル(林間学校の宿泊先)の売店で、自分のおみやげにキーホルダーを買いました。でもこのバードコールのほうが、ずっとかちがあるような気がします。とてもうれしいです」